

漁業地域再生プロジェクト トピックス

“ながさき SUISAN・Winter School”で渚泊をテーマに講演と討論



(一社)長崎県漁港漁場協会が主催する「SUISAN・Winter School」が1月30日、長崎市内のホテルで開催され、およそ100名の漁協及び市町村の方々が参加されるなかで、講演と討論を行いました。

講演の部では、私から「ひと・もの・情報の交流について」と題して、漁村の人口減少・高齢化、活性化方策と都市漁村交流、子ども都市漁村交流とその評価、漁村民泊(渚泊)の立ち上げから成長・発展プロセスの分析について紹介した。水産庁漁港漁場整備部及び長崎県水産部の担当官からは水産基盤整備事業予算や漁村活性化の取組事例の紹介がありました。

パネルディスカッションの部は、「漁村地域のにぎわいの創出に向けて」をテーマに、(一社)まつら交流公社の福守さんも参加して行われました。渚泊に対する国や県の施策、推進体制の在り方、観光コンテンツの磨き上げ方、マーケティング、そして漁港施設用地の活用について、会場からの声も交えながら議論が行われました。

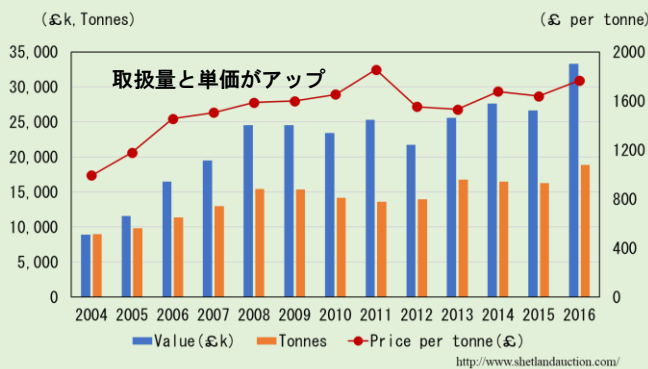
渚泊ということで、水産だけでなく商工・観光関係部局や異業種の民間企業との連携の必要性が強く感じられました。

海外の漁港・魚市場では ICT を活用して市場取引するのが一般

欧米ではかつて我が国は参考とした衛生管理対策は、過去の課題です。1980年代から商品情報の電子化による電子せりの導入、2000年代からオンライン化による場外からのせり参加、2010年代はweb取引が拡大しています。第3次産業革命-ICTの恩恵を享受しています!

なぜ我が国は十分に享受していないのか・・・

英国シェットランド島にある2つの魚市場がオンライン(インターネット)で連結



本校と国際交流協定を締結しているミャンマー海事大学において、2月21日に港湾工学・河川工学の先生と生徒に対し特別講義を行いました。

“Fishery Infrastructure Supply Fishery Products to the World”

水産物輸出は両国において共通する成長産業です。漁港の衛生管理、ICT活用、HACCP認定加工場、輸出港、利用輸送機関について研究成果と事例をあげながら講義を行いました。



学長を表敬

【漁業地域再生プロジェクト担当 問合せ先】

中泉 昌光(特任教授)
品川キャンパス 1号館 213号
Tel: 03-5463-0793
e-mail: nakaiO@kaiyodai.ac.jp